

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4592000014
法人名	特定非営利活動法人 こすもすの里
事業所名	こすもす2号館
所在地	宮崎県児湯郡新富町大字上富田5332 (電話)0983-21-5033
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 22年 3月 30日

【情報提供票より】(平成22年3月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18年 4月 18日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 10人, 非常勤 0人, 常勤換算	10人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	2名		
年齢	平均 85歳	最低	74歳	最高	94歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	児玉医院 いちき歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの窓からは、視野を遮る物もなくビニールハウスや畑が拡がり、庭に桜の花と芝生のゲートボールの練習場がのどかな風景を醸している。開設から4年、当初から利用している人も率先して、他の利用者と朝早くから掃除機をかけたり、モップをかけたり、洗濯物を干したりベランダに布団を干すなど、できることは自分でと、職員と一緒に共同生活が営まれている。ホールでは新聞を読む人、テレビで野球を見る人、おしゃべりする人それぞれに自由気ままなで和やかな様子が見られ、職員は心身機能の維持向上と安心安全を基本にケアに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員会議で評価結果を全員で話し合い、改善に向け取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員がそれぞれに判らない部分を管理者に聞きながら記入し、管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者家族、公民館長、民生委員、行政担当者、社会福祉協議会、地域包括支援センター等の出席で3か月に1回開催され活発な意見交換があり、防災無線を町にお願いし取り付けてもらうなど、出された意見は、サービス向上に活かしている。今後2か月に1回の開催をめざして取り組みを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議以外に、玄関にご意見箱を設置し意見を伺う取り組みをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の区会に入り、利用者の作品を文化祭に出品して、職員と見に出かけて知人と話したり、ボランティアの人が子どもと一緒に訪れるなど、散歩での近隣の人との挨拶以外に地元の人との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設者の思いを基本理念とし職員や利用者に見えるようにホールと事務室に掲示している。	○	法人の基本理念を基に事業所独自の理念を職員全員で話し合い、利用者のニーズを踏まえた日々のケアに活かせる理念を作り上げてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の「一緒に」「ゆっくり」「楽しく」のモットーと基本方針を、ケアの実践に向け取り組むように指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の区会に入り、文化祭に作品を出品した会場に職員と出かけて、知り合いの人と話したり、ホームにボランティアの人が子どもと一緒に訪れるなど、買い物や散歩での近隣の人との挨拶以外に地元の人と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、職員全員で取り組み、具体的改善には、出来るところから実践している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、公民館長、民生委員、町役場担当者、社会福祉協議会、地域包括支援センター等の出席で3か月に1回開催され活発な意見交換があり、防災無線を町にお願いし取り付けてもらうなど、出された意見は、サービス向上に活かしている。	○	今後2か月毎の開催になり、さらに運営推進会議が充実するよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に介護計画等に関する事などを相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームだよりを作成し、日常の様子や、行事、ボランティアの訪問などの写真を掲載し、職員の紹介とともに家族に配布している。また、利用者から預かっているお金は個人別に出納帳に記録し定期的に家族に報告、確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し意見を伺う取り組みをしているとともに、運営推進会議での家族代表の意見は運営に活かしている。		家族来訪時に、何か意見等ないか声かけをして伺うなど、何でも言いやすい雰囲気づくりを工夫してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動の時は、利用者とのコミュニケーションに配慮し、利用者一人ひとりにダメージを与えないように運営者も職員全員で対応し、落ち着いた笑顔のある日々を過せるように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員が研修を受けることに積極的で、業務として出張で参加させ、出張報告書により、他の職員にも報告をしている。できるだけ多くの職員が研修を受けられるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修に参加し、同業者と交流する機会を持ち、また、同系列のグループホームに管理者が利用者とともに訪問している。運営者は他の同業者との交流の機会をつくりたいとの思いがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ここ2年程入居者に変動はないが、管理者が自宅を訪問し、顔馴染みになり、ホームに家族と遊びに来て体験して納得した上でサービスを利用している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の顔色を見て判断し、必要に応じ居室でゆっくり話を聞いたり、ある時は、料理の味付けや洗濯物の干し方を教わりながら利用者と日々笑顔のある生活を過している。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりの思いや、暮らし方の希望、生活歴、趣味など日々の会話の中で把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の職員会議で、利用者一人ひとりについて話し合い、心身状態、有する能力の維持と自立支援をもとに、訪れる家族とも話し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月評価を行い、状態に変化がある時や介護計画の期間に応じた見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が出来ない受診の支援や買い物など柔軟に対応するよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望にそって、かかりつけ医の受診を支援している。また家族の状況に応じて、専門医や協力医療機関等の受診も職員が適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、利用者は元気で、重度化に向けた話しはしていないが家族と将来に向けた話し合いと、職員全員の受け入れる体制づくりと方針を共有するように、運営者、管理者は近いうちに取り組む考えを持っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の利用者に対する言葉かけや対応は、やさしく、丁寧であり、個人情報の取り扱いにも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	この2年利用者の入れ替わりがなく、「今日は何をするか」を利用者と話し合って決めたり、卓球やゲートボール、ぬりえや、書道をしたり、テレビで野球や、相撲を楽しむ人もいて、職員は利用者の一人ひとりの希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も利用者と同じテーブルでやさしく介助したり語らいながら同じ物を食べている。利用者と職員と一緒に盛りつけや片づけもしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週3日としているが、シャワー浴は何時でも希望に応じている。入浴する順番でもめることや、拒否する人もいるが、一緒に歌を歌ったり気分転換をはかるなど、その人に合わせ楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝、掃除機をかける人、モップをかける人、洗濯物を干したりたたんだり、調理で味見や盛りつける人等それぞれに生活歴を活かした役割をもって共同生活が出来ている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材の買い物に、利用者も一緒に出かけたり、花見に出かけるのを楽しみに居室の手作りカレンダーに記入している人もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵はかけていないので、利用者は職員に断わり、玄関から出て、広い芝生の庭でゲートボールをしたり、菜園で野菜の収穫をして、自由な暮らしになるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練や、年1回消防署の指導を受けて避難訓練を実施している。これからは職員と利用者で、何時でも適切で迅速に対応できるように毎月でもしていく必要があるとの意向である。		災害時に利用者が避難できる態勢づくりと、日頃行われる訓練に近隣の協力が得られるように、参加を呼びかけてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者が町の栄養士に献立表を見てもらい、糖尿病食の献立等のアドバイスを受けている。嚥下状態に合った調理法に工夫をし、毎日の食事量や水分の記録もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールはホームの中央部分にあり、天窓からの採光と四方からの風の通りもよく、利用者の団欒の場であり、テーブルやソファは、利用目的によって移動して食卓や共同で作業する台になり、牛乳パックで椅子を作ったり新聞を折ったりしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の壁には、美人画の塗り絵や誕生日の写真と職員全員の寄せ書きの色紙がに貼ってあり、手作りのひな人形も飾られ、利用者が嬉しそうに説明して下さった。日常生活用品もそれぞれに置かれその人らしく整理され、ベッドの位置も利用者が落ち着いて過せるように工夫されている。		